

ジャンル指定

かがく

[www.columnland.net](http://www.columnland.net)

## 怪獣大決戦

突如として東京タワー前に現れた40mはあろうかという巨大生物。ほのかに赤く光る巨体で二足歩行を行い、いかにも凶暴そうな顔つき、加えて口から炎を吐くそれは、誰が見ても怪獣と言う他無かった。

しかし、こうも毎週毎週襲撃されては流石に人類も慣れっこである。土曜の夕方にはタワー周辺の一般人はとつくに避難を完了しており、待機していた自衛隊が待つていましたと出動する。

先陣を切るのは陸自の最新鋭戦車、TK-X隊。時速70kmからの制動距離2mという驚異的な運動性で火炎放射にかすりもせず、わずかにもぶれない主砲から雨あられと砲弾を降り注ぐ。両足に精密射撃を受けた怪獣は、何十本もの裁縫針を突き立てられたかのような感覚に咆哮を上げて膝を落とす。

そして怪獣が動きを止めた次の瞬間、空の彼方から空自の次期主力戦闘機、F-35編隊が飛来する。17kNの大推力による超音速機群が突風のように通り過ぎ、すれ違いざまに放たれた150発のミサイルが怪獣に着弾、頭部を跡形も無く吹き飛ばす。

かくして今日も日本の平和は守られた。だが、安心はしてられない。4月から始まったこの怪獣の侵攻はまだまだ止む様子はなく、専門家の間では、来年の3月末に十数体の同時侵攻が起こるまで続くと見られている。来るべき決戦に向けて気を引き締め直す人類の横で、いつの間にか現れていた銀色の巨人が、心なしかしよくれた様子で空へと去っていった。

## 「科学する」

博士「いいかい、君。この世の中では言い方次第で何でも科学出来てしまうんだよ。」

君「科学するってどういう意味？」

博士「言葉の意味はまだ君には難しいからあまり気にしないでいいよ。じゃあ今から例として、おいしいラーメンを科学しよう。」

君「おいしいラーメン？」

博士「ああ、そうだよ。例えばね、毎日200人以上が待ち時間も厭わず並んで食べにくるラーメン屋さんがあるでしょう。このお店のラーメンはおいしいラーメンかな？」

君「あたりまえじゃないか。おじさん、博士って名前のくせして頭悪いんじゃない？」

博士「私が頭悪いかは置いて、なぜ君はこれがおいしいラーメンだと思うんだね？」

君「だって毎日200人以上が食べにくるんでしょ？それだけ食べにくるってことはおいしいってことだよ。」

博士「なるほど。素晴らしい意見だよ。つまり君が言いたいのは、『売れば売れる程、おいしいラーメンである。』ってことかな？」

君「そうなるね。」

博士「でもね、例えば非常食の代名詞、カップヌードル。これは全世界累計で250億食も売り上げているんだよ。もし君がいう通りにおいしいラーメンを科学すれば、世界一おいしいラーメンはカップヌードルになるね。」

君「本当だあ。よく分からないけどすごいね博士。」

博士「だてに博士を名乗ってないんでね。じゃあ今度は君の番だ。君の好きなものを科学してみよう。」

君「よし。じゃあねえ、うんとねえ……。決めたっ！博士は芝刈り機もってる？」

博士「ああ持つてるよ。」

君「じゃあ博士ん家には広い庭があるわけだよ？ってことは家族と暮らしていて、もちろん奥さんもいることになる。つまり博士は女の人が好きであって、ゲイじゃないってことだよ！」

博士「・・・そっそうだね。それも一種の科学だね。じゃあ君は芝刈り機を持つてるのかな？」

君「まさかー。まだ子供だよ？持つてるわけじゃないじゃん。」

博士「じゃあ君はゲイなのかい？」

君「うんそうだよ。今日は博士と一緒にいてとっても嬉しいんだ。」

博士「ぎゃあああああああー・・・」



## モスキートの群れ

生物学は日々進化し続ける。二〇四三年、丈夫な弾性繊維「蜘蛛の糸」を出して一躍有名になったバイオベンチャー企業BSLが、新たな製品を生み出した。その名も、エドワード・M・ステインガーである。Mはモスキートの略。つまり、蚊のストローをイメージした商品なのだ。この製品には、かの有名な蚊学者、エドワード氏が関わっていた。

この製品は、さつそく医療現場に適用された。蚊のストローはその精密な構造で、皮膚の痛みに触れることがない。この製品も同様で、痛みを感じさせずに、その上傷をつけずに（見えない傷）注射するのを可能にしたのだ。注射を怖がることの多い児童、乳幼児を中心に扱う医療機関が試験的に採用した。すると、たちまち大好評。これと並行するように、BSLの株価も上がっていった。そう、留まることなく。異常だった。——しかし、これは後から考えれば、至極当然であった。

二〇四七年初め、フリージャーナリストがある密約の記事を書き、画像とともにインターネットに掲載された。ほんの十分程度で消されたが、そこには大企業の重鎮らが、あくまで新興企業にすぎないBSLに次々と金を渡している写真があったのだった。

これをあやしく感じた警察は早速BSLを調査しようとした。しかし、裁判所からの令状は出されなかった。そのために、捜査が進展することもなかった。警察はそれだけ言って捜査を切ってしまった。そこで立ちあがったのが監査人ハミルトンであった。彼は少し前に、他のバイオ系企業からの依頼でBSLにエージェントを送り込んでいた。

厳重な管理下で送られてきた情報は、超微細な注射器を工事のふりをして壁につけている、という情報であった。送られた情報からあるビルの壁を許可をなしにとり、調べるとある種の化学物質を入れた微細な注射器が付いていた。

そして、とうとうBSL、そしてあらゆる企業、果ては国家ぐるみの計画が白日の下にさらされた。化学物質を、ビルに触れた人に気付かれないように投与する。その物質には薬はもちろん、生物兵器の一種、化学物質、果ては合成麻薬まで含まれていた。その後、個人を追跡調査してその影響を調べるといふものだった。つまるところ、国民に大規模な実験をしていたことになる。しかも、「影響はない」と国家が言ったスラム地区を中心に。

それからは芋づる式だった。BSL、兵器工場、製薬会社、……しかも、国はこれを黙認、というより、隠ぺいしていたのだった。データの絶対数を増やして競争力をつける、行き過ぎた競争主義のなれの果てであった。そして、蚊学者エドワード氏がこの考えを提唱した張本人であった。

エドワード氏は企業トップらと裁判を受けることとなった。しかし、裁判所すら国側にあったので、国際司法裁判所での裁判になった。そこでは検察側の証人として監査人のハミルトン氏がいた。

「このモスキートらが！　そこまでして情報を吸い取ろうと言うのか！」

そうハミルトン氏が強く問いかけると、薬害を被った人、株で大損した人が集う傍聴席からは、「ギルティ、モスキーター（蚊人間）ズ！　ギルティ！」

と野次がとんで騒然とした。しかし、エドワード氏はあきらめつつも、冷静な口調でこういった。

「結局、どんなにいい針でも、刺した部分はいつかはれ上がって蚊は見つかり、叩き落とされるものなのだね。」

## 私の憧れの恩人

「神が綴ったこの世界をひとつひとつひもといて行くこと、それが化学もとい自然科学なんだ。」

黒板を背にそう言って、多村先生は得意げな笑顔をした。

多村先生は私が高校2年の時の化学の教師だ。白衣と眼鏡がトレードマークで、みんなから「タムラちゃん」と呼ばれ親しまれていた。

「タムラちゃんは好きだけど、化学は嫌い！」という女生徒も多かったように思う。しかし私は化学がわりと好きだった。他の教科より暗記事項が少ないし、何より多村先生の授業が本当におもしろかったからだ。

ある日の授業後、多村先生に質問の帰りにこんなことを言われた。

「いつも勉強熱心だよね。点数も良いし、化学が性に合ってるんだね。」

はっとした。高校がそこそこ進学校だったためか、入学以来私に得意教科なんてものは無かったし、教師に誉められる事もなんて減多に無かった。要は落ちこぼれだ。しかしそうか、自分は化学が得意教科なのかもしれない。私は、地面から数センチ浮かんだような気分になった。

それからというもの、すっかり化学大好き少女になった私は、なんと分かりやすい性格なのだろう。自分で進んで教科書を読み、その分野のテレビにも興味を持った。友人から、化学の時間にやけてるよ、と指摘された時はさすがに病気かと思った。将来は理系で、研究職。そう決めた。

私が3年生になった春。先生は学校からいなくなった。離任だった。

最後に一目と職員室に押し掛けたの時の先生の言葉は、生涯私の糧となる。

「受験とか色々大変な事はあるけど、本当に好きな事なら頑張れる。大丈夫。あなたならきつと将来、立派な科学者になれるよ。」

私は、涙を流しながら頭を下げるのが精一杯だった。

あれからずっと化学というものに携わっているが、やはり私の原点は高校時代だ。神が綴ったこの世界を見てみたい。そしていつか多村先生に胸を張って挨拶出来るような立派な科学者になること。それが私の夢。いや、目標だ。

## スリミングドロップ

「一日一粒舐めるのを一週間続けただけでこんなに痩せるなんて信じられない！」

ほっそりとした胴体や手足を見せびらかしながら、私の同僚のS子は嬉しそうに言った。「スリミングドロップ」とはうちの製薬会社で最近作られた、飴という形をとったやせ薬である。この飴には体脂肪を吸収してくれる機能がある。まだ商品化はしていない。だがS子がどうしても欲しいと言うので、その効果を試したいこともあり会社側はS子にこの飴を与えたのだ。一週間前まで肥満体型だったS子は、今ではモデル並みの体型になっていた。

「ただ急な体型の変化についていけないからかもしれないけど、最近ちよつと疲れやすいの。重い物を持ち上げたり急な坂を歩く時とかにね。でもすぐに慣れると思うわ」

しばらくしてS子はぱったりと会社に来なくなった。心配になって私は彼女に電話をしてみた。

「最近家の外に全然出てないの。体を動かすのが前より辛くってね。食事はずっと出前。でもまだ痩せるのよ。食べる量も減らしていないし運動もしていないのに、まだ痩せる余地があるなんて凄いと思わない？」

彼女は弾んだ口調で喋る。私はあのモデル体系よりさらに痩せた彼女を想像した。

「そろそろ飲むのをやめた方が良くないじゃない？」

私がそう勧めると、予想外の反応が返ってきた。

「嫌！ だってあの飴おいしいんだもん。飲んだ後気持ちいいし。逆にあの飴の力が切れると辛いのに」

そう言って彼女は電話を切った。そういえば彼女は一日一粒というルールを守っているのだろうか。

「スリミングドロップの商品化は中止だ。あの薬は脂肪だけでなく骨や筋肉の成分も溶かして削ってしまうことが判明したんだ」

翌日、上司からそう告げられ私は真っ青になった。すぐにS子に電話するが応答が無い。

私はS子のアパートへ向かった。私を待っていたのは、もう動かない変わり果てた姿のS子だった。手足の骨や筋肉だけでなく頭蓋骨や肋骨まですべて溶けてなくなり、彼女は内蔵だけが詰まった皮だけのゴム人形と化していた。そのそばには彼女が最期まで飲み続けたであろう飴の袋が散乱していた。

「バズーカに祈りを込めて」

今日は、十一月二十九日、日曜日、学園祭三日目、

最終日。時刻は、十八時四十分。つい先ほど夕日は沈みきって、オレンジ色の空には濃青色が染み渡っていた。宴もたけなわ、各団体は模擬店を営み、後片付けをしているかと思えば、ギリギリまで売り上げようとする輩もいる。僕の所属する科学技術研究会もほぼ後片付けを終わらせ、いまからの打ち上げの話で盛り上がっていた。……ある一人の女性を除いて。その女性、唐栗 千鶴は、談笑する僕たちを一瞥もせずに、夜風のように消え去ろうとしていた。その小さな背中を確認した僕は小走りで彼女を追いかけた。

「先輩！ どこに行くんですか？ 今から飲み会ですよ。」

「興味ないわね。楽しくなさそう。それに私には任務があるのよ。そうだ、羽車君ちよつとついてきて。」

「あ、はい。」

打ち上げの話をさっぱりと切り捨てたその勇ましい口調に凄んだ僕は、言われるがままに彼女について行った。そして、たどり着いたのは、科学技術研究会の保有している倉庫。彼女は倉庫の鍵を開け、勇み足で暗がりを進み、何かとても重そうな物体を入口まで引っぱり張ってきた。黒光りしているフォルム。長い円筒。ガシャガシャと動くキャタピラ。

これは――

「えっ？ これってバズーカですか？」

「よく分かったじゃない。流石ね。」

「いや、流石じゃなくて、なんでこんなものがあるんですか？」

「もちろん作ったのよ。一体何のために機械科学科に入ったと思っているの？ 私ももう四年生だし、最後の思い出を残そうと思って。」

「えっ……待ってくださいよ！ 確かに先輩、数学の

○山とか物理の高△とか、かなり毛嫌いしました

けど、何が何でも大学に復讐しなくてもいいんじゃない（汗）だって、ここの校舎って核攻撃に二回も耐えるって噂ですし。」

「五月蠅い。男は黙って、女の言う事聞きなさい。」  
「……」

無茶振りすぎる。こんなことしたら警察沙汰じゃ収まらない。NOKのニュース9とかで報道されるレベルだぞ！ しかし、彼女の信念は強く、僕は成す術なく彼女の誘導に従い、軽自動車くらいの大さのバズーカ砲を動かし運んでいた。そして、本館前のウッドデッキに到着してしまったのだった。

「今日は晴れていて、とても見晴らしがいいわね。」

「あの……本当に撃つんですか？」

「ええ。」

「だから、核攻撃にも……」

「大丈夫、五秒おきに全部で三十発撃てるから。」

「何が大丈夫なんですか！ やっぱりいけません。」

ふざけすぎえます！

僕がそう言って、彼女の左手首を強く握った時、

「あつ、ごめん。スイッチ押しちゃった。」

ものすごい爆音で放たれた弾は僕の思っていた軌道を大きく逸れ、真上に飛び出した。

そして、それは炸裂した。

鼓膜を震わせる、その音。胸を叩く、その音。

闇夜に映える鮮やかな緑。ただ、ただ美しい緑。

続けて、二発目、三発目と次々に弾は放たれていった。冬の火花に周りからは歓声が上がった。皆が夜空を見上げ、祭の終幕に浸っていた。

「私はね、みんなが幸せになれる何かを作りたいの。そのために工学系の道を選んだ。例え、それが人を殺めるための武器でも、私ならこの上なく素敵なものに改良できる。」

そう言った彼女の満面の笑顔も、また素晴らしく綺麗だと思った。



## タイムマシンよ永遠に―

最初のタイムマシンの発明者は実験に成功した瞬間に宇宙の塵となった。時間軸の移動に気をとられたあまり、移動先が地球上である保障がないことを考えていなかったのだ。最初のタイムマシンの発明者はその事実を知らないままに歴史の闇に葬られた。

二番目のタイムマシンの発明者は単純なことを忘れていた。未来に行くことには成功したが、過去に戻れなかったのだ。二番目のタイムマシンの発明者は人類が減びなければ西暦一万五千年と呼ばれていただろう。その時代でただ独り人類の二度目の絶滅を待っている。

三番目のタイムマシンの発明者は運が悪かった。最初の時間旅行から帰ってきた矢先に、未来からやってきた四番目のタイムマシンの発明者に殺されたのだ。三番目のタイムマシンの発明者の研究データは破棄され、その発明はなかったことにされた。

四番目のタイムマシンの発明者は悪人だったが、賢明な判断をした。自分より先にタイムマシンを発明した人を殺せば自分がタイムマシンの最初の発明者であるように歴史を改竄できると考え、実行に移したのだ。後になって、自分より後にタイムマシンを発明した人も同じことを考えるだろうことに気づき、タイムマシンを発明したことを公表するのをあきらめた。

これらの話は五番目のタイムマシンの発明者によつて初めて明らかにされた。ただし、その真偽は定かではない。



猛烈な頭痛で、目が覚めた。体を起こそうとしたが、あまりに激しい目眩で、どこが地面なのかすら分からない。それでもなんとか上体を起こし、目を開いた。

見知らぬ部屋だった。小さな体育館ぐらいで、窓も扉もなく、向かいの壁に人の背ほどの巨大な黒い円が描かれているだけ。誰もいない。妙に静かな空間。

何でこんな所に閉じ込められているのか、全く記憶がない。思い出そうとしても、頭痛でそれどころではなかった。尋常でない痛みだった。頭だけでなく、体中が強烈な圧迫感を感じて悲鳴を上げていた。まるで超高圧の深海のようだ。

凄まじい不快感に襲われ、吐いた。胃の中身を出し切っても、吐き気は収まらない。体中をまんべんなく押し固められるような苦しみに、のたうち回った。何がどうなっているんだ。誰か助けて。大声で叫んだ。だが、その声が聞こえない。もう一度、今度は絶叫した。やはり無音だ。何も聞こえない。耳がおかしくなったのか。

呼びかけに応える声も聞こえず、不気味に静かすぎる部屋の中で、それでもなんとか立ち上がる。とにかくここから出なくては。扉を探したが、それらしいのはあの黒い円しかない。ふらつく足取りで一步、踏み出した。途端に頭痛と不快感、圧迫感が増した。我慢してもう一步踏み出す。さらにひどくなる。三歩目で耐えきれず、後ずさった。すると、わずかだが、不快感が減った気がした。二三步後ろに歩いてみた。はつきりと不快感が減ったのが分かった。

そこで初めて、俺は気づいた。

ああ、そういうことか。

だが、どうすればいい。近づくことは出来ない。霞む視界の中で、必死に探した。もう体は限界だ。耳からも鼻からも血が滴り落ちてくる。あった。部屋の壁はボードの貼り合わせだった。その一枚を無理矢理はがした。

木製で、そこそこ重量はある。着ていた服を脱いで、ボードに被せた。袖を持って、砲丸投げの要領でぐるぐる回転し、渾身の力を込めて、黒い円の方に投げた。過たず、ボードは円の中心に激突した。

その瞬間、部屋中を満たしていた140ホンの大音量が、消えた。

音響兵器の開発実験を不正に行っていたとして、某機関が摘発されたのは、俺が脱出に成功し、警察に保護された数日後の事だった。

人間は130ホン以上の音を、音として聞くことが出来ない。鼓膜が破れる一步手前の140ホンの大音量を聞き続ける人間がどうなるのか、俺はその実験台になっていたのだ。麻酔で強制的に眠らされた人間をあの部屋に閉じ込め、意識がない間に徐々に音量を上げ、目が覚める頃には、もう音であることすら分からなくなっている。

今にして思うが、あの巨大なスピーカーを破壊する事を思いついていなければ、俺の命はなかった。鼓膜が破れる重傷を負いはしたが、幸いにも、一生続く障害が残るほどではなかった。

今でも「LRAD」などの指向性音響兵器は、中東戦地で実際に使われている。せいぜい攻撃意欲を無くさせる程度のものだが、ひよつとしたら、音だけで人を殺すようになる時代が、もうそこまで来ているかもしれない。

かがく  
基礎暇学実験 実験番号・五

【課題】次の空白を三十分間見つめること。三十分はタイマーなどで全員一斉に計る。実験中に時計は見ないようにすること。三十分たったら、実験中に頭の中で考えていたこと（論理的でなくてもよい。想像・妄想したことも可）を書き出し、提出せよ。また、三十分間を「暇である」と感じたかどうかについても明記せよ。なお、居眠りをした場合は受講者の感じ方を「暇である」と判断したうえで減点対象とする。

| コンテスト結果 |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |      |
|---------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|
| コラム番号   | コラムタイトル  | 点数                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 順位  | 特別賞  |
|         |          | まじょコメント                                                                                                                                                                                                                                                                                        |     |      |
| 01      | 怪獣大決戦    | 5 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 6 位 | 0 sp |
|         |          | 1 ばん 水素爆弾の破壊力——<br>うわあん、僕らのウルトラマンがっ！ なラストシーンが笑えます。<br>毎週放映のTV番組さながらのお茶の間怪獣退治、がんばれ陸自に空自と、爽快に楽しめました。<br>ほんと破壊されたはずの東京タワーが次の週になにごともなく復元されちゃうのがお約束ですよ。<br>イチオシフレーズ：「銀色の巨人」                                                                                                                         |     |      |
| 02      | 「科学する」   | 1 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 7 位 | 2 sp |
|         |          | 2 ばん ヘリウムガスのかるやかさ——<br>科学と言うより論理学か。<br>もったいぶった博士を背負い投げしちゃう「このマセガキ！」んな展開がナイス。<br>芝刈り機アンケートまで飛び出しての話題集中で、みごとイチオシフレーズ大賞です。おめでとう！<br>特別賞：『アッー！』賞 from Quadrivium班（矢良内科） みなさん芝刈り機を持っているで賞か？ from Xe班（私は女ですけども）<br>イチオシフレーズ：「じゃあ君はゲイなのかい？」<br>「今日は博士と一緒にいてとっても嬉しいんだ☆」<br>「ぎゃあああああああああ<br>ああ—————・・・」 |     |      |
| 03      | モスキートの群れ | 0 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 8 位 | 2 sp |
|         |          | 3 ばん リチウム電池のモスキート——<br>緻密に組み立てられた力作でした。知らないうちに注射されちゃうなんて、盗聴密告社会よりもっとコワイですね。<br>全体、ちょっと単調であらすじっぽいので、いきなり壁から注射器がっ、みたいな入り方でドラマティックに展開しても良かったか。<br>特別賞：不快な音は嫌で賞 from 三尺玉班（年寄りには聞こえない） どっちもどっちで賞 from 頑張れTotoro班（株で大損した人もギルティじゃね？）<br>イチオシフレーズ：「結局、どんないい針でも……ものなのだね」                                |     |      |
| 04      | 私の憧れの恩人  | 7 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 5 位 | 1 sp |
|         |          | 4 ばん ベリリウムな午後はいかがでしょう——<br>人生誰にでも、背中を押してくれた、たいせつな先輩がいる。<br>そんな出会いを、まっすぐな決意表明として届けていただいて、読者の心もあつためてくれる共感度大な仕上がりでした。<br>特別賞：何をやらかしたんで賞 from 51 23 V班（こないいい先生なのに）<br>イチオシフレーズ：「私は地面から数センチ浮かんだ気分になった」                                                                                              |     |      |
|         |          | 0 pt                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 8 位 | 4 sp |

|       |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       |     |      |
|-------|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|------|
| 05    | スリミングドロップ        | <p>5 ばん ホウ酸団子にご用心——</p> <p>内臓だけのゴム人形、グロテスクなラストですね～。</p> <p>痩せ願望の商品化。おもしろいコンセプトでした。自分の体に何が起きているか分からないS子嬢の一人称で恐怖を語らせたら、いっそうホラーが際立ったのでは？</p> <p>ゆるい設定にしたことで、逆にみんなのツッコミ意欲を引き寄せて、最多特別賞ゲットです、おめでとう！</p> <p>特別賞：内臓は溶けないんで賞か？ from Science班（心臓の筋肉とか溶けそうですが） 何で内臓は残ってるの？ 平滑筋には効かないんで賞か？ from 183.8 74 W班（7 類をなめるな！） 尾田栄一郎賞 from 39Y班（なんてあわれなゴム人間） スリリング賞 from Zn班（個人的にほしいです）</p> <p>イチオシフレーズ：「まだ痩せる余地があるなんて凄いのじゃない？」</p> |       |     |      |
| 06    | 「バズーカに祈りを込めて」    | <table><tr><td>9 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr></table> <p>6 ばん しーおーつー警報発令——</p> <p>千鶴ねえさん、カッコいい！ 冬の花火の、冴え冴えと華麗な光景が目につかびます。</p> <p>口技研あたりで、やってくれないかなあ、イヴの夜にでも。もちろん、ねえさんコミで。</p> <p>イチオシフレーズ：「男は黙って女の言う事聞きなさい」「私はね、みんなが幸せになれる何かを作りたいの」</p>                                                                                                                                                                | 9 pt  | 4 位 | 0 sp |
| 9 pt  | 4 位              | 0 sp                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |      |
| 07    | タイムマシンよ永遠に—      | <table><tr><td>14 pt</td><td>1 位</td><td>0 sp</td></tr></table> <p>7 ばん 液体窒素より寒い宇宙——</p> <p>たんたんとした歴史書風の語りがとても似合ってますね。で、そこに盛り込まれる最先端科学なのに、めっちゃめっちゃ古風な人間ドラマが魅力的。</p> <p>構成も展開もかっちりと仕上げられて秀逸でした。ブラボー、ゴールド・メダル!!</p>                                                                                                                                                                                               | 14 pt | 1 位 | 0 sp |
| 14 pt | 1 位              | 0 sp                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |      |
| 08    | 絶対不可聴領域          | <table><tr><td>13 pt</td><td>2 位</td><td>0 sp</td></tr></table> <p>8 ばん 酸素不足の息苦しさ——</p> <p>無力な生身の人間vs凶暴な巨大科学という対立を、「静かなる大音響」という凝った魅力的な状況（まあ、またしてもウソらしいのですが……）をこしらえて見せていただきました。何とか無事脱出で良かった良かった。</p> <p>出題者さんにして、今週ただひとりの勝負ですさん、でした。おめでとうシルバー・メダル!!</p> <p>イチオシフレーズ：「140ホンの大音響」</p>                                                                                                                              | 13 pt | 2 位 | 0 sp |
| 13 pt | 2 位              | 0 sp                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |      |
| 09    | 基礎暇学実験<br>実験番号・五 | <table><tr><td>11 pt</td><td>3 位</td><td>1 sp</td></tr></table> <p>9 ばん フッ素加工で大変身——</p> <p>ヒマ学ですか、そうですか。</p> <p>みんなの妄想データを集めると何が分かるのかしら。それこそ妄想をかき立てられる余白がポイントの裏表紙でした。予想外の作者さん登場にびっくり！ でしたね。おめでとうブロンズ・メダル！</p> <p>特別賞： 賞 from \(\wedge U \wedge\) / 班（実際にやってみよう）</p>                                                                                                                                             | 11 pt | 3 位 | 1 sp |
| 11 pt | 3 位              | 1 sp                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |       |     |      |